

ヘルスケアFM研究部会

内なるFM 外へのFM

ヘルスケアFM研究部会 部会長

上坂 修 こうさか おさむ

株式会社ヘルスケアFM研究所 代表取締役
認定ファシリティマネジャー

ヘルスケアFM研究部会では、サービス系施設の特徴である顧客中心のFMを実現するため、3S (STAFF,SERVICE,SPACE) の統合の場を重要なステージと考えている。前半では昨年の活動を紹介した。これまでミッシングリングとなっていた医療機器に関して「医療機器管理と研修」セミナーを行って活動領域の充実を図り、中小病院での医療機器管理の専門性・必要性和臨床工学技士コンサルタントの有効性について議論を深めた。「3Dとバーチャルリアリティ」見学会では、BIM - FMの普及した近未来の病院での変化と可能性を探っている。病院事例研究では、「多摩医療PFIの進化」を見学会により確認し、7年間の経緯と近年の部会メンバーによる実績を検証した。病院コア領域を支える5つのマネジメント領域を明確にとらえて横串を刺すことにより、アウトソーシングを統合して全体最適化を実現するEBFMの進化は、ヒトを変えそして育て、組織の成長へと結びつけてきたことで、本年JFMA賞2018の受賞に結実した。

病院の建替・増改築、ホスピタリティ、BCP、LCM、省エネ、長寿命化、ヘルスケアリート、プリンジサービスへと、ヘルスケアFMのテーマは着実に広がってきており、これからは病院単体へのFMから地域全体をとらえるFMへ進化していく。少子高齢化社会の到来は、施設から在宅への還元サイクルが進行してきたが、AIの進展は「病院」という高機能集合体を高機能分散体としての存在に昇華させてゆき、未

病・疾患という病体以前の根源的な健康体の管理システム「健院」にまで変化を遂げようとしている。

新病院移転とヘルスケアFM

埼玉石心会病院の石原病院長と平沼ファシリティマネジャーの移転開院までの軌跡をたどる後半では、「健康経営・働き方改革」への潮流が病院にまで及んできたことが実感される。病院理念「断らない医療・患者主体の医療」を実践する仕組みの根源は「スタッフ満足」による意欲の向上であり、生命を癒すバイオフィリアとなる病院のありようは、高度化されていく医療技術との対比として病棟からER総合診療センターまで、そしてカルテット(ハイブリット)手術室にまで具現化されている。A. Aaltoが目指した横たわる人のための設計と立った人への設計が融合されていて、これからの建物の育て方が十分期待される。

地域に密着した医療は移転引越時に端的に表れていて、患者移送に消防救急隊の協力を求めず県内広域から確保された車両計画により綿密に実行された。30年に一度となる移転引越は災害医療時とともに事業継続の試金石であり、地域医療に溶け込んで実施された細やかな試みの数々は、地域医療継続にとって重要なスタートであったといえる。作る立場からではなく使う立場から生み出されたこの病院の真価は、今後も深耕されていき、病院長とファシリティマネジャーとの不断の営みから生み出される変化へのマネジメントの完成形を見せてくれるであろう。

まとめ「内なるFM,外へのFM」

将来の保健医療は「健院」が支える
病院建築の視点で考える保健医療2035

20世紀の「病院」機能を分散化し、予防を中心に据えて、各種の「健院」を群で構成し家庭や社会の中に溶け込ませ、国民が病院に行かなくても日常的に「健康が保持できる」という意識改革を掲げたい。:長澤 泰 東京大学名誉教授

JAHMC 2016年1月号

将来の保健医療は「健院」が支える:JAHMC2016.1 長澤泰



石心会 埼玉石心会病院:外観 提供 平沼昌弘